

作成番号:0263

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-263

\*\*\*\*\*

内容:運動や栄養などの手術前プレハビリテーションは、有効か？

出典:Relative efficacy of prehabilitation interventions and their components: systematic review with network and component network meta-analyses of randomised controlled trials.

BMJ (Clinical research ed.). 2025 Jan 22;388:e081164. pii: e081164.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39843215/>

\*\*\*\*\*

運動、栄養など多要素的な手術前のリハビリテーション(プレハビリテーション)は、手術を受ける成人患者に有用かを、カナダ・オタワ大学の研究者らがメタ解析を実施し、その結果を BMJ 誌 2025 年 1 月 22 日号に報告した。

手術を受けた成人患者の術後合併症、入院期間、健康関連 QOL および身体回復に及ぼす相対的な有効性を推定する目的で、無作為化比較試験のシステマティックレビューとネットワークメタ解析およびコンポーネントネットワークメタ解析を行った。待機的手術を受ける 18 歳以上の成人を対象にプレハビリテーション群と対照(通常ケア、標準ケア)群を比較した無作為化試験で、重要なアウトカムを報告しているものとした。186 件の無作為化比較試験(被験者計 15,684 例)が解析対象となった。ランダム効果ネットワークメタ解析の結果、通常ケアと比較して以下のプレハビリテーションは合併症を減少させる可能性が高かった。運動単独はオッズ比:0.50、栄養単独は 0.62、運動+栄養+心理社会的ケアの併用は 0.64。また、入院期間を短縮する可能性が高かった。運動+心理社会的ケアの併用はオッズ比:−2.44、運動+栄養の併用は−1.22、運動単独は−0.93、栄養単独は−0.99。健康関連 QOL および身体的回復の改善に有効だったのは、運動+栄養+心理社会的ケアの併用であった。

プレハビリテーションの有効性は明らかであるが、それをより確実にするためには、優先度の高いアウトカムに関して適切な検出力のあるバイアスリスクが低い多施設共同試験が必要である。



